

相生歴史マップ資料 1 1 和泉式部の^{あまやど}雨宿りと^{しだ}枝垂れ栗の木

相生では、和泉式部が播磨の歌枕を見廻るために^{じゅんゆう}巡遊したことが伝えられています。

和泉式部が娘の^{こしきぶの}小式部内侍がいる^{しやう}矢野荘を訪れた時、^{しの}雨を凌ぐためにこの栗の木で雨宿りをし、歌を一首詠みました。

「^{こけ}苔むしろ ^{しきしま}敷島の道に ゆきくれて

雨の内にし 宿る木のかげ」

この栗の木は今、^{こうりんざんとくじやうじ}江林山得乗寺(相生市那波)にあり、^{なば}兵庫県の天然記念物(1935年)に指定されています。(西日本に現存するのは2本だけだそうです。)

^{のりむら えんしん}赤松則村(円心)の^{こうえいのりすけ}後裔教祐が^{あまうち}那波に浜御殿を造ったとき、雨内村の栗は、浜御殿へ移し植えられたそうです。現在、那波の得乗寺にある栗の木は、これを^つ植え接いだものだそうです。

参照：「ふるさと相生の歴史」 著者：島田 清

発行者：相生市教育委員会 相生の歴史を考える会

「相生・和泉式部伝説 雨宿りの栗の木」 著者：古橋 彩波

※江林山得乗寺は、相生駅南約 1.2km、那波港信号北へ 150m、那波小学校の南側にお寺があります。但し、枝垂れ栗の木は、寺の境内ではなく裏にあるので、見学する際は、お寺の許可を取って下さい。



写真が枝垂れ栗の木です。確かに普通の栗の木とは違い、枝が垂れて葉が覆いかぶさるように生えています。木の前に先ほどの(「苔むしろ・・・」)歌碑があります。



確かに、木下に入れば雨宿りできそうな木です。この栗の木の下が、「パワースポット」とも言われ、中に入って写真を撮る女性も多くいるそうです。木の横には、式部塚もあります。写真を撮る際は、もちろん、お寺の了解を取ってからにしてください。